石川県における最近5カ年間の 結核の推移

金沢大学医学部日置内科教室

石川県衛生部医務課

高 崎 秀 雄

(昭和 28 年 10 月 13 日受付)

緒 言

わが国の結核死亡率が、昭和 20 年の人口 1 万人に対する 28.2 人を頂点として、2,3 年の間に急速に減少したことは、保健所網の整備、集団検診の徹底、B.C.G.の普及、療養施設の拡充等、予防的、社会的保障の諸政策の影響にもよるところであるが、又一面諸化学療法、外科的療法の進歩、普及による影響を看逃すことができない。

石川県にあつては、昭和 12 年に結核死亡率人口 1 万対 34.40 を最高とし、昭和 16 年にもなお 29.84 という高率であつた（この死亡率は大正 11 年以来昭和 17 年に至る 21 年間全国第 1 位であつた）が、昭和 16 年より特別計画を樹て、結核予防指定県として国庫補助を得て撲滅に邁進し、その 5 年間に渉る結核予防施策により、昭和 22 年には人口 1 万対 19.47 の結核死亡率に減少、全国順位も第 18 位に迄降下するに至つたのである。

この間に行つた事業としては、石川県保健歌の制定、養護聚落の実施、出稼帰郷者の健康指導、教員衛生講習、市町村民の健康調査、生活改善指導、衛生地区の設定、街頭検診の実施、栄養品の配給、法定外在宅貧困結核患者の救護等枚挙に遑ないが、昭和 26 年 3 月法律第 96 号を以つて結核予防法が公布されるに及び、前記特別対策事業の続行に加えて、療養費の公費負担制度も新設され、ここにその結核対策は格段の進展を来して今日に及んでいる。

すなわち更に将来本県結核予防対策の完璧を期せんとするには、再びその後における対策事業の成果を問うことは決して無意義に非ざるべく、加えてその成績は如何に結核化学療法にの進歩、外科的療法の普及が県内における結核性病態の推移に改変を来し得たかを知るよき参考資料たり得るものと信ずる。

調 査

調 査 方 法

昭和 23 年 1 月より昭和 28 年 3 月までの約 5 年間に、石川県各保健所長及び金沢市長より石川県知事に提出された次の報告書より主として調査し、必要に応じ各保健所へ照会報告を求めた。

1) 人口動態調査令（昭和 21 年勅令第 447 号）に基づく「人口動態統計月報」。

2) 伝染病届出規則（昭和 22 年厚生省令第 5 号）及び結核予防法（昭和 26 年法律第 96 号）に基づく「届出伝染病及び結核患者日報」及び「届出伝染病及び結核患者日報」。

3) 結核予防法に基づく「結核予防接種年報」及び「結核健康診断月報」。

4) 厚生省報告例（昭和 26 年厚生省訓令第 5 号）に基づく「結核患者収容施設」及び「結核集団検診成績」。

なお、患者、死者等の数については、すべて「伝染病簡速統計作成要領」（昭和 23 年 6 月発健第 56 号通牒別紙）に基づいて作成された数を計上した。蓋し「伝染病精密統計作成要領」（昭和 23 年 12 月予発第 1639 号通牒別紙）に基づく全国統計の作成には、厚生省において約 2 カ年を要しているため、石川県の状況を全国のそれと比較するのに甚だ不便を感じるからである。

人口については、全国人口は昭和 25 年は国勢調査人口を、その他の年は総理府統計局の推計人口を用い、石川県人口は次によつた。

昭和 23 年 8 月 1 日常住人口

昭和 24 年 12 月 31 日産業統計人口

昭和 25 年 10 月 1 日国勢調査人口

昭和 26 年 12 月 31 日産業統計人口

昭和 27 年 7 月 1 日住民登録人口

又、以下「年」とあるは歴年を以つて、「年度」とあるは会計年度を以つて調査したものである。

調 査 成 績

I 結核罹患状況について

石川県と全国の結核罹患状況を比較するに第 1 表に示す如くであつて、罹患率は、全国では昭和 23 年を最少に漸次増加し、昭和 26 年に最大となり、昭和 27 年も

第 1 表 結核罹患状況

	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年
石川県 罹患数	7,026	7,717	6,818	7,266	7,688
石川県 罹患率	74.6	80.7	71.2	76.0	80.6
全 国 罹患数	382,810	464,903	528,832	590,662	586,651
全 国 罹患率	47.9	56.8	63.6	69.8	68.3

(註) 罹患率は人口 1 万に対する率を示す

第2表 年令別性別結核罹患状況

年次	年令別	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59	60以上	計
昭和23年	男	罹患率 85 14.7	150 27.3	139 29.0	455 96.8	901 231.0	634 264.2	465 172.2	324 124.6	397 79.4	191 47.8	84 22.1	3,825 84.5
	女	罹患率 87 15.5	125 23.6	172 35.8	414 86.3	780 181.4	613 170.3	381 119.1	244 81.3	223 42.9	123 29.3	39 8.0	3,201 65.6
	計	罹患率 172 15.1	275 25.5	311 32.4	869 91.5	1,681 202.5	1,247 204.4	846 143.4	568 99.6	620 60.8	314 38.8	123 14.5	7,026 74.6
昭和24年	男	罹患率 122 21.0	217 39.5	172 35.8	386 82.1	848 217.4	732 305.0	443 164.1	361 133.7	526 105.2	260 65.0	135 35.5	4,202 91.0
	女	罹患率 115 20.5	201 37.9	166 34.6	416 86.7	754 175.3	666 185.0	390 121.9	289 96.3	312 60.0	149 35.5	59 12.0	3,515 71.0
	計	罹患率 237 20.8	418 38.7	338 35.2	802 34.4	1,602 193.0	1,398 229.2	833 141.2	650 114.0	838 82.2	407 50.2	194 22.8	7,717 80.7
昭和25年	男	罹患率 115 16.9	222 40.4	146 31.1	318 70.7	697 178.7	679 219.0	403 149.1	379 135.4	435 88.8	215 61.4	119 32.2	3,728 80.8
	女	罹患率 99 15.0	210 38.9	167 36.3	374 81.3	657 156.4	594 160.5	334 101.2	249 75.5	220 41.5	109 29.5	83 16.6	3,090 62.3
	計	罹患率 214 16.0	432 39.6	307 32.6	692 76.0	1,354 167.2	1,273 187.2	737 122.8	628 104.7	655 64.2	324 45.0	202 23.2	6,818 71.2
昭和26年	男	罹患率 223 32.8	256 46.5	158 33.6	314 70.0	577 147.9	664 214.2	427 158.1	324 115.7	484 98.8	320 91.4	200 54.1	3,947 86.1
	女	罹患率 225 34.1	194 35.9	186 40.4	359 78.0	634 151.0	543 146.8	328 99.4	268 81.2	302 57.0	152 41.1	128 25.6	3,319 66.8
	計	罹患率 448 33.4	450 41.2	344 36.6	673 74.0	1,211 149.5	1,207 177.5	755 125.8	592 98.7	786 77.1	472 65.6	328 37.7	7,266 76.0
昭和27年	男	罹患率 212 31.2	423 76.9	298 63.4	333 74.0	572 146.7	586 189.0	390 144.4	330 117.9	499 101.8	265 75.7	164 44.3	4,072 88.7
	女	罹患率 153 23.2	396 73.3	329 71.5	399 86.7	637 151.7	527 142.4	384 116.4	280 84.8	317 59.8	121 32.7	73 14.6	3,616 73.0
	計	罹患率 365 27.2	819 75.1	627 66.7	732 80.4	1,209 149.3	1,113 163.7	774 129.0	610 101.7	816 80.0	386 53.6	237 27.2	7,688 80.6

(註) 罹患率は人口1万に対する率を示す

ほぼ前年と同率になつている。然るに石川県にあつては、罹患率の年次的な増減は見受けられないが、常に全国のそれを遙かに上廻つており、両者の差は最も尠いときで昭和26年の6.2、多いときは昭和23年の26.7という隔りを示している。

更に石川県の結核罹患状況を年令別、性別に分類したものが第2表である。すなわち、総数においては男女共罹患率の年次的な増減は見受けられず、常に男子の罹患率が女子のそれよりも高いが、年令的には15才より34才までの青壮年層の罹患率が漸次減少し、特に20才より29才までの青年層のそれが著明に減少している反面、14才以下の幼少年層及び40才以上の更老年層の罹患率が漸次増加し、特に9才以下の乳幼児のそれは著しく増加している。しかし、依然として20才乃至39才までの青壮年層の罹患率は他の年令層より高く、昭和27

年にあつても全罹患数の半数はこの年令層で占めている。

又、性別では青壮年層における罹患率の減少及び更老年層における罹患率の増加は、いずれも男子の方が女子よりも著明である。而して、特に15才から24才に至る間にあつて、昭和23、24年には男子の罹患率が女子のそれよりも高かつたのが、昭和26、27年には反つて女子の罹患率が男子のそれよりも高くなつている。

II 結核死亡状況について

石川県における主要死因別死亡者数と総死亡者に対する率を第3表に掲げる。すなわち、全結核による死亡率は昭和23年には12.7%であつたのが年を追うて減少し、昭和27年には8.5%となり、且つ、昭和26年までは第1位を占めていた結核死亡率が、昭和27年には中枢神経系の血管損傷・老衰・悪性新生物による死亡率

第3表 年別主要死因別死亡者数

年 数 率 死 因	昭和23年		昭和24年		昭和25年		昭和26年		昭和27年	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
中枢神経系の血管損傷	1,078	8.0	1,235	9.5	1,304	10.3	1,065	9.5	1,328	13.0
老悪性新生物	905	6.7	1,076	8.3	1,083	8.5	945	8.4	992	9.7
全結核	774	5.7	805	6.2	861	6.8	866	7.7	923	9.0
(再掲)呼吸器の結核	1,724	12.7	1,631	12.5	1,452	11.4	1,071	9.5	875	8.5
全心臓の疾患	1,443	10.6	1,335	10.3	1,202	9.5	834	7.4	701	6.8
胃炎、十二指腸炎、	648	4.8	711	5.5	712	5.6	690	6.1	715	7.0
肺炎及び大腸炎	1,639	12.1	1,167	9.0	1,281	10.1	1,007	9.0	709	6.9
肺炎	790	5.8	747	5.7	750	5.9	737	6.6	595	5.8
感の事故	451	3.3	398	3.1	381	3.0	355	3.2	341	3.3
腎炎及びネフローゼ	431	3.2	369	2.8	427	3.4	306	2.7	291	2.8
胃及び十二指腸の潰瘍	300	2.2	294	2.3	250	2.0	237	2.1	243	2.4
気管支炎	426	3.1	425	3.3	514	4.0	303	2.7	228	2.2
自髄膜炎	133	1.0	162	1.2	168	1.3	148	1.3	157	1.5
赤痢	159	1.2	159	1.2	124	1.0	93	0.8	86	0.8
先天的奇形	17	0.1	50	0.4	75	0.6	105	0.9	66	0.6
天奇形	80	0.6	90	0.7	60	0.5	69	0.6	50	0.5
毒及びその続発症	43	0.3	55	0.4	57	0.4	52	0.5	47	0.5
糖尿	34	0.3	45	0.3	55	0.4	46	0.4	41	0.4
虫垂炎	49	0.4	45	0.3	36	0.3	45	0.4	37	0.4
脚気	134	1.0	113	0.9	71	0.6	67	0.6	42	0.4
総数(上掲以外をも含む)	13,549	-	13,015	-	12,703	-	11,246	-	10,248	-

(註) %は総死亡者に対する率を示す

第4表 結核死亡状況

	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年
石川県死亡数	1,724	1,631	1,452	1,071	875
石川県死亡死亡率	18.3	17.1	15.2	11.2	9.2
全国死亡数	145,259	138,765	122,099	93,654	70,499
全国死亡死亡率	18.2	17.0	14.7	11.1	8.2

(註) 死亡率は人口1万に対する率を示す

よりも少なく第4位になっている。

石川県と全国の結核死亡状況を比較するに第4表に示す如くであつて、死亡率は、全国、石川県共昭和23年より漸次減少し、昭和27年の死亡率は昭和23年の約半に減少している。しかも石川県の死亡率は全国のそれとはほぼ同率である。

更に石川県の結核死亡状況を年令別・性別に分類したものが第5表である。すなわち総数においては男女共死亡率は年次的に漸次減少しているが、男子の死亡率は常に女子のそれよりも高くなつている。

年令的には、60才以上の老年層の死亡率が漸増している他は、いずれの年令層においても死亡率は減少してきており、特に15才より39才までの青壮年層の死亡率の減少は著明である。

又、性別では老年層における死亡率の増加及び他の年令層における死亡率の減少は、いずれも男子の方が女子よりも著明にして、特に青壮年層における死亡率の減少が男子に著しいため、昭和23年には10才から19才に至る間においてのみ女子の死亡率が男子のそれよりも高かつたのが、昭和27年には、5才から29才までも

の大幅の年令層において女子の死亡率が男子のそれよりも高くなつている。

Ⅲ 結核患者の転帰について

石川県の結核療養所及び結核病床20床以上を有する病院における入院結核患者の退院当時の転帰を示したものが第6表である。すなわち、全治(略治を含む)して退院する患者については、年次的な増減は見受けられないが、軽快退院する患者は年次的に増加し、昭和27年には昭和23年の約25%も多くなつている。反対に、不変・増悪・死亡の転帰により退院する患者は次第に減少している。特に昭和27年の死亡による退院は、昭和23年のその半数以下になつている。

Ⅳ 「ツベルクリン」反応成績について

石川県各保健所及び金沢市保健所が実施した結核集団検診における「ツベルクリン」反応検査の成績を第7表に掲げる。すなわち「ツベルクリン」反応陽性率は、結核集団検診が一般市町村民にまで普及し実施され始めた昭和24、25年度よりも、昭和26年度、昭和27年度と次第に高くなり、最近4カ年間に「ツベルクリン」反応陽性率は約15%の上昇をしている。

更に年令的に年次傾向を見るに、19才以下の若令者の「ツベルクリン」反応陽性率は次第に上昇しており、特に0才より9才までの乳児、幼児のそれは著明に上昇している。反対に50才以上の高令者の「ツベルクリン」反応陽性率は次第に下降している。その結果、29才までの間における「ツベルクリン」反応陽性率の上昇度は、昭和24年度に比し昭和27年度は非常に緩慢になつている。

第5表 年令別性別結核死亡状況

年次	年 令 別	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~49	50~59	60以上	計
昭和23年	男	死亡数 40 6.9	死亡数 24 4.4	死亡数 9 1.9	死亡数 54 11.5	死亡数 164 42.1	死亡数 148 61.7	死亡数 129 47.8	死亡数 105 38.9	死亡数 115 23.0	死亡数 97 24.3	死亡数 49 12.9	934 20.6
	女	死亡数 37 6.6	死亡数 19 3.6	死亡数 27 5.6	死亡数 112 23.3	死亡数 168 39.1	死亡数 137 38.1	死亡数 94 29.4	死亡数 51 17.0	死亡数 65 12.5	死亡数 43 10.2	死亡数 37 7.6	790 16.2
	計	死亡数 76 6.7	死亡数 43 4.0	死亡数 36 3.8	死亡数 166 17.5	死亡数 332 40.0	死亡数 285 46.7	死亡数 223 37.8	死亡数 156 27.4	死亡数 180 17.6	死亡数 140 17.3	死亡数 86 10.0	1,724 18.3
昭和24年	男	死亡数 47 8.1	死亡数 11 2.0	死亡数 8 1.7	死亡数 60 12.8	死亡数 151 38.7	死亡数 126 52.5	死亡数 87 32.2	死亡数 92 34.1	死亡数 116 23.2	死亡数 94 23.5	死亡数 72 18.9	864 18.7
	女	死亡数 48 8.6	死亡数 15 2.8	死亡数 23 4.8	死亡数 87 18.1	死亡数 143 33.3	死亡数 118 32.8	死亡数 91 28.4	死亡数 68 22.7	死亡数 85 16.3	死亡数 60 14.3	死亡数 29 5.9	767 15.5
	計	死亡数 95 8.3	死亡数 26 2.4	死亡数 31 3.2	死亡数 147 15.5	死亡数 294 35.4	死亡数 244 40.0	死亡数 178 30.2	死亡数 160 28.1	死亡数 201 19.7	死亡数 154 19.0	死亡数 101 11.7	1,631 17.1
昭和25年	男	死亡数 32 4.7	死亡数 15 2.7	死亡数 8 1.7	死亡数 35 7.8	死亡数 115 29.5	死亡数 99 31.9	死亡数 79 29.3	死亡数 83 29.6	死亡数 123 25.1	死亡数 84 24.0	死亡数 63 17.0	736 16.0
	女	死亡数 53 8.0	死亡数 34 6.3	死亡数 16 3.5	死亡数 65 14.1	死亡数 117 27.9	死亡数 114 30.8	死亡数 81 24.5	死亡数 68 20.6	死亡数 68 12.8	死亡数 56 15.1	死亡数 44 8.8	716 14.4
	計	死亡数 85 6.3	死亡数 49 4.5	死亡数 24 2.6	死亡数 100 11.0	死亡数 232 28.6	死亡数 213 31.3	死亡数 160 26.7	死亡数 151 25.2	死亡数 191 18.7	死亡数 140 19.4	死亡数 107 12.3	1,452 15.2
昭和26年	男	死亡数 43 6.3	死亡数 11 2.0	死亡数 7 1.5	死亡数 34 7.6	死亡数 56 14.4	死亡数 74 23.9	死亡数 66 24.4	死亡数 46 16.4	死亡数 89 18.2	死亡数 65 17.7	死亡数 61 16.5	552 12.1
	女	死亡数 43 6.5	死亡数 16 3.0	死亡数 9 2.0	死亡数 44 9.6	死亡数 91 21.7	死亡数 79 21.4	死亡数 58 17.6	死亡数 52 15.8	死亡数 58 10.9	死亡数 36 9.7	死亡数 33 6.6	519 10.4
	計	死亡数 86 6.4	死亡数 27 2.5	死亡数 16 1.7	死亡数 78 8.6	死亡数 147 18.1	死亡数 153 22.5	死亡数 124 20.7	死亡数 98 16.3	死亡数 147 14.4	死亡数 101 14.0	死亡数 94 10.8	1,071 11.2
昭和27年	男	死亡数 27 4.0	死亡数 9 1.6	死亡数 5 1.1	死亡数 17 3.8	死亡数 49 12.6	死亡数 49 15.8	死亡数 47 17.4	死亡数 37 13.2	死亡数 57 11.6	死亡数 67 19.1	死亡数 90 24.3	454 9.9
	女	死亡数 16 2.4	死亡数 12 2.2	死亡数 9 2.0	死亡数 32 7.0	死亡数 57 13.6	死亡数 65 17.6	死亡数 54 16.4	死亡数 47 14.2	死亡数 59 11.1	死亡数 33 8.9	死亡数 37 7.4	421 8.5
	計	死亡数 43 3.2	死亡数 21 1.9	死亡数 14 1.5	死亡数 49 5.4	死亡数 106 13.1	死亡数 114 16.8	死亡数 101 16.8	死亡数 84 14.0	死亡数 116 11.4	死亡数 100 13.9	死亡数 127 14.6	875 9.2

(註) 死亡率は人口1万に対する率を示す

第6表 入院結核患者の転帰

年 数率	昭和23年		昭和24年		昭和25年		昭和26年		昭和27年	
	実数	%								
全治又は略治	451	21.5	515	27.5	645	30.6	642	24.5	507	18.4
軽快	655	31.2	593	31.7	717	34.1	1,209	46.1	1,506	54.5
不変	536	25.5	326	17.4	372	17.7	484	18.4	471	17.1
増悪	31	1.5	23	1.3	22	1.0	27	1.0	24	0.8
死亡	426	20.3	414	22.1	349	16.6	260	10.0	254	9.2
計	2,099	—	1,871	—	2,105	—	2,622	—	2,762	—

(註) %は総退院患者に対する率を示す

Ⅴ 結核集団検診における結核患者
発見状況について

石川県各保健所及び金沢市保健所が実施した結核集団

検診において、発見された結核患者数及び結核患者率は第8表に示す如くである。すなわち結核患者率には年次的の増減は特に認められないが、結核集団検診が一般市町村民にまで普及し実施され始めた昭和24年度に較べると、昭和27年度にあつては検診人員1,000名に付、約4.5増加している。

更に年令的に年次傾向を見るに、0才より4才までの乳幼児における結核患者率は著しく減少し、昭和27年度の結核患者率は昭和24年度のその約1/2になつている。又、5才より24才まで

第7表 「ツペルクトリン」反応検査成績

年度 成續 年令	昭和23年度				昭和24年度				昭和25年度				昭和26年度				昭和27年度			
	検査人員	陽性		陰性		検査人員	陽性		陰性		検査人員	陽性		陰性		検査人員	陽性		陰性	
		人員	%	人員	%		人員	%	人員	%		人員	%	人員	%		人員	%	人員	%
0~4	0	0	0	0	1,642	129	7.9	1,513	92.1	10,718	1,381	12.9	9,337	87.1	33,272	3,052	9.2	30,220	90.8	
5~9	45,336	11,981	26.4	33,355	73.6	76,729	15,818	20.6	60,911	79.4	141,013	31,917	22.6	109,096	77.4	104,080	99,721	38.2	64,359	61.8
10~14	67,886	29,029	42.8	38,857	57.2	95,825	46,718	48.8	49,107	51.2	117,501	54,555	46.4	62,946	53.6	79,320	43,261	54.5	36,059	45.5
15~19	29,601	18,029	60.9	11,572	39.1	30,207	19,884	65.8	10,323	34.2	39,516	21,998	55.7	17,518	44.3	28,991	16,973	58.5	12,018	41.5
20~24	18,845	16,797	89.1	2,048	10.9	15,965	11,292	70.7	4,673	29.3	26,783	16,705	62.4	10,078	37.6	30,249	20,415	67.5	9,834	32.5
25~29	9,851	8,785	89.2	1,066	10.8	6,214	5,104	82.1	1,110	17.9	18,022	12,201	67.7	5,821	32.3	21,035	13,754	65.4	7,281	34.6
30~34	7,866	7,427	94.4	439	5.6	5,105	4,325	84.7	780	15.3	12,478	9,364	75.0	3,114	25.0	12,726	8,615	67.7	4,111	32.3
35~39	6,378	6,106	95.7	272	4.3	3,763	3,301	87.7	462	12.3	11,953	9,761	81.7	2,192	18.3	6,978	6,013	86.2	965	13.8
40~44	3,622	3,468	95.7	154	4.3	3,005	2,665	88.7	340	11.3	7,841	6,717	85.7	1,124	14.3	5,796	4,789	82.6	1,007	17.4
45~49	2,628	2,506	95.4	122	4.6	2,040	1,833	89.9	207	10.1	5,133	4,529	88.2	604	11.8	4,622	3,967	85.8	655	14.2
50~54	1,022	986	96.4	36	3.6	1,291	1,117	86.5	174	13.5	3,560	3,199	89.9	361	10.1	3,759	3,004	79.9	755	20.1
55~59	416	374	89.9	42	10.1	917	791	86.2	126	13.8	2,414	2,106	87.2	308	12.8	2,782	2,412	86.7	370	13.3
60以上	184	178	96.7	6	3.3	1,066	845	79.3	221	20.7	4,031	3,123	77.5	908	22.5	2,299	2,071	90.1	228	9.9
計	193,635	156,666	80.9	36,969	19.1	243,769	113,822	46.7	130,947	53.3	400,963	177,556	44.3	233,407	55.7	335,909	193,047	57.5	142,862	50.0

(註) 陰性の中には疑陽性も含まれる

第8表 結核患者発見状況

年度 成續 年令	昭和23年度			昭和24年度			昭和25年度			昭和26年度			昭和27年度		
	検査人員	結核患者		検査人員	結核患者		検査人員	結核患者		検査人員	結核患者		検査人員	結核患者	
		人員	率												
0~4	0	0	0	4,143	94	22.7	10,787	293	27.2	37,188	284	7.6	34,283	365	10.6
5~9	45,728	262	5.7	80,601	459	5.7	144,658	776	5.4	111,209	804	7.2	113,264	1,217	10.7
10~14	71,645	475	6.6	100,696	359	3.6	126,442	834	6.6	89,543	492	5.5	93,795	1,007	10.7
15~19	31,200	332	10.6	34,435	213	6.2	45,240	496	11.0	36,581	265	7.2	45,586	420	10.9
20~24	19,898	233	11.7	26,197	286	10.9	34,259	776	22.7	37,854	433	11.4	39,727	720	18.1
25~29	10,241	188	18.4	11,074	261	23.6	22,832	710	31.1	27,171	454	16.7	29,613	679	22.9
30~34	8,124	131	16.1	8,555	168	19.6	15,236	597	39.2	16,793	329	19.6	18,138	387	21.3
35~39	6,828	118	17.3	7,598	225	29.6	14,680	495	33.7	10,174	250	24.6	13,267	327	24.6
40~44	4,014	97	24.2	6,263	175	27.9	9,913	313	31.6	8,969	186	20.7	11,230	259	23.1
45~49	2,968	69	23.2	4,546	170	37.4	7,089	282	39.8	8,401	151	18.0	8,363	148	17.7
50~54	1,125	52	46.2	3,135	120	38.3	4,948	282	57.0	6,824	111	16.3	8,160	170	20.8
55~59	587	31	52.8	2,304	84	36.5	3,039	216	71.1	4,501	106	23.6	3,741	77	20.6
60以上	189	14	7.4	3,073	112	36.4	4,958	254	51.2	3,774	127	33.7	3,564	33	9.3
計	202,547	2,002	9.9	292,620	2,726	9.3	444,081	6,317	14.2	398,982	3,992	10.0	422,731	5,884	13.9

(註) 結核患者の率は、検査人員1,000名に対する率を示す

の結核患者率は僅かながら増加しているが、25才以上のそれは反対に少々減少している。特に55才以上の高令者の結核患者率は著明に減少し、昭和27年度の結核患者率は昭和24年度のその約半から約半になつてゐる。その結果結核患者率は、昭和24年度には年令の進むと共に多くなつてゐたが、昭和27年度には25才より44才に至る年令層に最も多くなつてゐる。

考 按

さて石川県における最近5カ年間の結核の推移については概略以上の如くであり、結核罹患率には特に増減がないにも拘らず、結核死亡率は最近5カ年間の間においてすなわち減少し、石川県が結核予防特別計画に基づく事業を開始した昭和16年の人口1万対29.84の結核死亡率に比すると、昭和27年の結核死亡率はそれよりも減少し、特に青壮年層の結核死亡率が激減したことは、石

川県の結核予防施策及び結核予防法に基く結核予防事業が、主として青壮年層に重点を置いて実施されたことを裏付けるものである。

更に結核死亡率の減少に加えて、石川県の結核療養所及び病院における入院結核患者の転帰に、死亡の激減を始め病状不変・増悪の減少・治癒特に軽快の増加が見られることは、昭和24年10月に医師に対し Streptomycin の配給制度が実施されたのを始めとし、漸次 PAS, TBI, INAH 等の化学療法や、胸廓成形術、肺葉切除術等の外科的療法が進歩、普及した結果と考えられる。特に結核予防法第34条、第35条の規定による結核療養費の公費負担制度は、社会保障の上からこれ等結核に対する特殊療法の普及を一層容易ならしめ、結核治癒率の増加、結核死亡率の減少に一段と拍車をかけたものといえよう。

又、石川県における最近5カ年間の結核罹患率には上述の如く特に増減がないにも拘らず、結核集団検診における「ツベルクリン」反応陽性率の上昇及び発見される結核患者率がやや増加していることは、結核予防法の施行に伴い、結核に関する健康診断及び予防接種が漸次普及徹底されて来た結果と思われる。特に、乳児・幼児にあつては、「ツベルクリン」反応陽性率が著明に上昇しているにも拘らず、発見される結核患者率が反対に著しく減少していること、及び学令期より青年層までの間にあつても、「ツベルクリン」反応陽性率の上昇に比して発見される結核患者率の上昇が極めて微々であることは、結核予防剤である B.C.G. の接種による効果と解される。

而して、「ツベルクリン」反応自然陽転者は、結核発病の虞れある者として一定期間特に経過観察と爾後指導を必要とすることはいうまでもないが、B.C.G. 接種の普及した今日、両者の鑑別に関する攻究を怠つているため、B.C.G. 陽転者をも自然陽転者と同様、結核発病の虞れある者として取扱われることがたびたび見受けられるが、これについてはいささか行過ぎとも思われるので、結核集団検診において自然陽転と B.C.G. 陽転との鑑別に将来努力することが、結核予防事業を推進する上においての急務の一つと考えられる。

結 論

昭和23年1月より昭和28年3月までの約5カ年間に、石川県各保健所長及び金沢市長より石川県知事に提

出された結核に関する各種報告書等より、石川県における最近の結核の推移を調査したところ、次の結論を得た。

1) 結核罹患率については、男女共年次的な増減は認められないが、常に男子の罹患率は女子のそれよりも高く、結核罹患率は青壮年層にあつては減少しているが、幼少年層及び更老年層にあつては反つて増加している。而してこの減少及び増加は女子よりも男子に著明である。

2) 結核死亡率は男女共年次的に漸次減少し、昭和27年には昭和23年の約1/2になり、且つ、昭和26年までは国際疾病傷害及び死因統計分類表による主要死因中第1位を占めていたが、昭和27年には第4位に下降している。而して結核死亡率は老年層において漸増しているの他は、いずれの年齢層においても減少し、特に青壮年層における減少は著明であり、この減少及び増加はいずれも女子より男子に著明ではあるが、未だ結核死亡率は女子よりも男子に高い。

3) 結核療養所及び病院における入院結核患者の転帰は、全治・略治・軽快による退院が年次的に増加し、病状不変・増悪・死亡による退院は反対に年次的に減少している。特に死亡退院は半数以下に激減している。

4) 「ツベルクリン」反応陽性率は、最近4カ年間に約15%上昇し、特に若令者にあつては B.C.G. 接種の影響もあり漸次上昇している。なかんずく乳児・幼児の「ツベルクリン」反応陽性率は著しく上昇している。反対に高令者のそれは漸次下降している。

5) 結核集団検診において発見される結核患者率は、5才より24才までの年齢層において僅かながら増加しているの他は、すべて減少している。特に乳幼児・高令者のそれは著しく減少しているが、全検診人員について発見される結核患者率は、昭和24年度よりも昭和27年度においてやや増加している。

擧筆するに当り、終始御懇篤なる御指導と御校閲を賜つた恩師日置教授に深甚の謝意を捧げるとともに、種々御指導を賜つた杉野石川県衛生部長に謝意を表す。

文 献

勝俣・国重：石川県に於ける結核対策の回顧（昭和25年）